

アカシア探険隊

～MI・2010(夏)
広島県知事室潜入の巻～



75回 湯崎 英彦氏
～広島県知事～

今回は平成21年11月29日、公選知事としては第7代の広島県知事に就任した湯崎英彦さん(75回)の登場です。

湯崎さんは2回目の登場。前回は情報通信会社(アッカ・ネットワークス、現イー・アクセス)を起業された頃でした。

当時は新進気鋭の起業家、経営者としてのお話を聞かせて頂きましたが、今回は政治家、広島県行政の長として様々なお話をしてくださいました。勿論アカシアへの想いや、現役生徒諸君へのメッセージもお預かりしました。



谷口：本日は大変にお忙しいところ、お時間を頂き有難うございます。

湯崎：いえいえ、とんでもありません。アカシアのインタビューですのを楽しみにしていました。ちょうど今日は母校の開校記念日で、学校で講演をしてきたところです。なのでアカシア・デーですね。

谷：そう言って頂くと、こちらが気が楽になります。ありがとうございます。

湯：その言葉遣いはやめてくださいよ(笑)。いつも通りに話しましょう。

谷：またまた助かります。話し難い事を聞くかもしれませんが、よろしくお願いします。

湯：谷口さんのツッコミ次第ですが、こちらこそよろしく願います。

谷：現在、知事に就任して半年弱が過ぎました。率直な感想を聞かせてください。

湯：そうですね。想像したり、期待していた事と大きくかけ離れている点は無いですね。むしろ県の職員の皆さんの改革への意欲には頼もしさを感じています。もっと変化に対するガードが堅いかと思っていましたが、私が唱えている「成果主義」、「現場主義」、「県民起点」といった言葉を素直に受け入れてくれています。

谷：前知事時代、色々と報道されてきた広島市との関係はどうですか？

湯：秋葉市長も県との関係を前向きに捉えて頂いているようで、建設的な話が出来ると感じています。これは私が就任前に抱いていた期待以上の手ごたえです。

谷：その他日々の業務のなかで気付いた事、驚いた事などはありませんか？

湯：そうですね、例えばこの知事室に飾られている絵ですが、石井泰行アカシア会会長(43回)の義理のお父様(児玉希望画伯)の作品なんです。先日、石井会長が写真を撮りにこられました。業務上では、職員が説明や相談をしに来ることを「協議」って言うのには当初慣



左上が児玉希望画伯の絵



P r o f i l e

昭和40年10月4日広島市佐伯区生まれ
60年3月広島大学附属高等学校卒業、平成2年3月東京大学法学部卒業、同年4月通商産業省(現経済産業省)入省 機械情報産業局総務課、自動車課、7年6月スタンフォード大学経営学修士、資源エネルギー庁 原子力産業課課長補佐、9年5月通商政策局 米州課課長補佐、10年8月米国ベンチャーキャピタル イグナイト・グループ出向、12年3月通商産業省退官、株式会社アッカ・ネットワークス設立 代表取締役CEO、日本のインターネット基盤の確立に貢献、同年12月代表取締役副社長、20年3月同社退任、Office Yエグゼクティブ・パートナー設立、経営コンサルティング/アドバイザーで活躍、21年11月広島県知事当選、就任

れなかったですね。それから、庁内スケジュールに新年の挨拶はあっても新年度の挨拶が無いのには驚きましたね。ですから今年から始めました。

谷：次に対外的な事をお聞きします。広島県の大きな課題の象徴的なものに鞆の浦の架橋問題があります。これは全国的にも、世界的にも注目されていますよね。

湯：よく誤解されているんですが、私は「橋を架けるか、架けないか」というスタンスでこの問題に臨んではいません。元来、地域を良くする為にどうするかという事から始まった話が、架橋の是非という一点のみの問題になっていることが問題なんです。「地域を良くするために何が最善か？」は地域の方々が判断するのがベストです。行政はそれに対して出来るだけの

広島県知事活躍中 [湯崎 英彦氏(75回)]



県知事の益々のご活躍と“ふるさと”広島の実展、並びにアカシアの皆様の益々のご健勝を祈念申し上げます。

アカシア会 常任幹事会有志一同

お手伝いをさせて頂くのが本来の役割です。

谷：とは言いつつ、知事としてこうしたら良いというものがあるのでは？

湯：いえ、それをやってしまうと事を誤ってしまいます。地域の皆さんも、県の職員も、そして私も、もう一度「地域を良くする」という原点に帰って考えてみよう、ただそれだけなんです。

谷：いきなり難しくて微妙な問題から触れてしまって申し訳ありません。知事はその他にも多くの課題を解決しなければなりません。が、そもそも何故、知事になろうと思ったのですか？

湯：まずこれからの日本を考えた時、地方が活性化しないとどんどん沈んでいくという図柄が浮かんできます。次に我が郷土広島を眺めてみると、どうも元気がない、活力が感じられない。自然や歴史を見てもとても恵まれており潜在能力は計り知れないものがあるのに、です。広島に活力を取り戻すには、様々な面からのアプローチが必要です。経済は勿論、教育、福祉その他、多くの改革すべき課題があります。それを実現していくには知事しかないと感じたからです。

谷：そう思っても、実行に移す人はなかなかいません。なぜ湯崎さんにはそれが出来たと思いますか？

湯：元来向こう見ずなところがあるのかもしれませんが(笑)、やはり中学、高校時代の体験・経験が大きく影響していると思います。附属ってあれはダメ、これもダメ、っていう学校じゃないですよ。『やりたい事があったら、とりあえずやってみろ』って雰囲気ですから。但し、行動や結果には自分で責任を取る、っていうのが付いてきますが。でも「やらないと意味が無い」、「行動しないと結果は出

ない」って事を大いに学びましたね。

谷：具体的にはどんな体験や経験ですか？

湯：たくさんありすぎて困りますが、例えば中一の時の話ですが、バンドを結成したいと思っていました。ただ、入学したばかりでどうやって仲間を集めたらよいかわからない。その時思い切ってメンバー募集の貼り紙をしたんです。そしたらすぐに男女合わせて5、6人のメンバーが集まりました。「行動したら、結果が出るもんだ」と強烈な印象が残りましたね。それから、高校に入学してすぐにアメリカに一年間留学したんですが、本当に留学して良かったと思いました。留学そのものも勿論ですが、74回と75回の両方に友人がたくさんできましたから。

谷：選挙の時も、74回、75回の方が本当にたくさん手伝っていましたね。あの時、体育祭や文化祭のノリを感じたのですか？

湯：あ〜、谷口さんもそう思いましたか。実は私も同じように感じました。体育祭や文化祭って、学校側の定めた大枠はあるけど、自分たちで企画して自分たちで動いて、っていうのが伝統ですよ。あの経験は今回の選挙に限らず、様々な場面で活かされています。在校している間はそれが当たり前だと感じていましたが、卒業してみると本当にいい学校にいたんだなあと思います。

谷：附属の話になってきたところで、現役生徒諸君へのメッセージをお願いします

湯：附属っていう学校は何でも奨励してくれる学校です。今は時代が違うのでわかりませんが、我々の頃はマナーやモラルさえ守っていれば、少々の事は黙認してくれていました。(悪い事でも黙認してくれた?)ですから勉強でも、クラブ活動その他でも、やりたい事があったらどんどん挑戦して欲しいです。それが許される学校ですから。「行動すれば、結果が出る」しかし「行動しない限り、何も生まれない」のです。

谷：続いてアカシアのメンバーへのメッセージをお願い致します。

湯：この度の立候補、選挙に関しまして本当にお世話になりました。多

くの方々が本当に一生懸命にボランティアでお手伝いしてくださいましたし、色々な場面で私を支えてくださいました。本来なら、お一人お一人にお会いして御礼を申し上げなければならないのですが、それもままならず申し訳ない気持ちで一杯です。

谷：知事としての仕事を立派にしているのだから、それが一番の御礼になっていますよ。

湯：そう言って頂けると救われます。今後ともいろいろとお世話になると思いますが、よろしくお願い申し上げます。

谷：最後に、知事としてのこれからの夢を聞かせてもらえますか？

湯：立候補した当初から変わっていないのですが、一番の夢は広島県に住んでいる方々に「広島に住んでいて良かったなあ」と様々な生活シーンで感じて頂けるようになることです。お一人お一人価値観が違うので、何を以ってそう感じて頂けるかは簡単に定義できませんが、様々な分野で「良くなってきている」と感じてもらえるようにしていきたいです。

Today is better than yesterday, and tomorrow will be better than today.

を目指しています。

谷：本日は貴重なお時間を頂き、本当にありがとうございました。これからのご活躍をお祈りいたします。



公務多忙な中、疲れを感じさせない爽やかで透明感のあるインタビューをすることが出来ました。

課題山積の広島県政に淡々と、しかし闘志を内に秘めて「挑戦、そして実現」している姿に感銘を受けました。

中本 泰弘(65回)

谷口 公啓(73回)



左から 中本泰弘(65回)、湯崎英彦氏(75回)、谷口公啓(73回)